
追憶 ~ retrospect ~ ベータ版

山流

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

追憶（retrospect）ベータ版

【Nコード】

N1982E

【作者名】

山流

【あらすじ】

あの頃の記憶を時々思い出すのは、まだあの頃に心残りがあるからだろう……。高校に進学して半年がたった頃、僕は忘れていたあの頃を思い出してく……

第一章（前書き）

この小説は少し作者の癖のある書き方で進行していくので、多少場面がつかめないことがあるかもしれませんが。

第一章

あの頃の記憶を時々思い出すのは、まだあの頃に心残りがあるから
だろう

追憶〈retrospect〉

第一章記憶

空はもう真っ赤に染まっていた。

季節は秋、少し肌寒くなってきた風が僕の体を貫く。

僕は少し足を速めながら駅へと向かった。

駅内は人であふれており、どこか僕だけがこの空間で
ただ1人浮いているような気がした。

丁度来た電車に乗り込み空いている席を見つけ座ると
やっと今日一日が終わったような気がしてほっとする。

ゆっくり動き出した電車の窓から景色を眺めていると、
何かを忘れていたような気持ちに僕はなる。

30分くらいかけ電車が目的の駅に着いた。

僕は止めておいた自転車の乗り、家へと進めた。

そして、それは帰り道の途中のことだった。

「また・だ・・・、」

僕は自転車を止め、頭を右手で抱え思い出そうとする。

周りはすでに暗くなってきてきて街頭の光だけが辺りを照らしていた。

「ダメだ・・・思い出せない・・・」

僕は最近、何か思い出せそうで思い出せない。そんなことが度々起こっていた。

ミ ミ ミ ミ ミ ミ

「どうして、こう思い出せないことばかりなのだろうか・・・。」

次の日の授業中、僕はそんなことばかり考えていた。先生の声も耳に入らなかった。

そのおかげで、今日の授業はまったく手付かずだった。

「お前が授業中、上の空なんて珍しいな。なんかあったのか？」

休み時間、その声をかけてきたのは同じクラスで親友の相沢亮輔だった。

「んっなにもないよ。」

僕は聞き流しながら教科書を鞆にしまっていた。

しかし相沢は僕に疑いの視線を向けたまま

「いや、あやしい」

よっぽど暇なのか、今日はなぜか追及してくる。

秋風が教室の窓を揺らす。

「なあ、」

僕は話題を変えようと相沢に言う、

「なんだよ、？」

「亮輔は中学の頃の記憶覚えているか？」

ミ ミ ミ ミ ミ ミ ミ

また今日も僕は学校が終わるとそそくさと足を速め駅へと向かっている。

でも今日は早く家に帰りたいたけではなくて、雨が今にでも降りそうな様子だった

から、傘をもつてない僕は濡れる前に家に着きたかった。

まあ結局、早く帰りたいことに変わりはないのだが・・・

帰り途中、今日の学校の休み時間の亮輔との会話を思い出す。

「はぁ？何言ってるんだよ、そりゃいろいろ覚えてるよ、だってまだ中学にいた時間のほうが長いんだから」

相沢は不思議そうな表情をしてそう言った。

「そうか・・・。」

聞いた自分がなんだか恥ずかしくなった。

「なんか、今日のお前変だな」

相沢がそういった後、休み時間終了のチャイムが学校内を響かせた。

ミ ミ ミ ミ ミ ミ

「雨か・・・。」

空を見上げると、降りそうで降らなかった雨雲からポツポツと雨が降ってきた。

仕方ないなと思い、雨に濡れながら帰っていると、道路を挟んだ向こう側で、

中学生の数人が僕とまた同様、雨に濡れながら走って帰っているのを見た。

その時だった。

中学の頃の自分が一人で雨の中を走っている、断片的な記憶が脳裏に

浮かんできたのだった。

続く。

第一章（後書き）

追憶読んでくださいますありがとうございますとございました。

この小説はあるブログで書いているものなのですが
こちらでも連載していきます。これからもよろしくおねがいたし
ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1982e/>

追憶～retrospect～ベータ版

2010年10月31日01時54分発行